Ⅰ 研　究　経　過

本校は、昭和53年4月に開校し、本年度で9年目を迎える精神薄弱養護学校である。開校以来"表現化に視点をあてた教育課程の編成・実践"、次いで、"豊かな心をもち、たくましく行動する子"の研究に取り組んできた。そして、昨年度より"発達と障害に応じた教育をめざして ── 個に視点をあてた指導の実践 ──" に取り組んでいるが、ここで、今までの経過をふり返ってみる。

1. 昭和53年度の研究

研究の方向を「積極的に参加しうる人間の育成」と定め、その教育内容選定の視点を、自立化、社会化、表現化、職業化におくことにして、教育内容表を作成し、研究主題を「表現化に視点をあてた教育課程の編成」とした。

2. 昭和54年度の研究

53年度に作成した教育内容表及び年間指導計画の実践過程の中から ── 社会的自立をめざす学習指導の研究 ── に取り組み、「社会的自立」をめざすために、各学部が表現化とのかかわりを基本に指導を展開した。

3. 昭和55年度の研究

54年度の実践の深化と、学習指導法の改善、さらに評価についての研究を進め、各学部の特色を一層明確にしようとした。

4. 昭和56年度の研究

指導内容の検討に重点を置き、特に重度・重複化に対する内容の検討を行い、教育内容表の改訂をし、「生きてゆく力」となるための個人生活の基礎作りから集団生活への適応、さらに社会的・職業的生活への発展としての学習内容の一貫性の問題が、研究の中心となった。そして、この年をもって、4年間続けてきた"表現化に視点をあてた教育課程の編成・実践"の研究に一応の区切りをつけることにした。

5. 昭和57年度の研究

57年度には、前年度までの研究の成果を継承すること、新しい観点に立脚することという2つの点を同時に満足させる新しい研究主題を設定して取り組むことになった。そして、①体力・気力の育成、②「養護・訓練」の充実、③感受性を育てる、の3つの柱だった考え方を包括して、「豊かな心をも

ち、たくましく行動する子」という主題を得た。1学期から2学期初めにかけて、この主題を得るための討論が積み重ねられた。主題決定後の2学期後半からは、この主題を実践し、検討するための研究授業が繰り返し行われ、研究がすすめられた。

6. 昭和58年度の研究

前年度までで一応の基本的な考え方が確立し、実践段階に入った。小学部では生活単元学習を、中学部では生活単元学習と作業学習を、高等部では作業学習を中心に実践が行われた。

7. 昭和59年度の研究

「豊かな心をもち、たくましく行動する子」というテーマからしてもっと深く個に入りこんで指導を徹底させていかなければ定着が困難であるとの反省から、生活単元学習、作業学習を中心にしながらも、個に視点をあてて研究をすすめていこうとする動きが現れ、その流れにそって研究をすすめた。また、教師もひとりひとりが各児童・生徒に課題をもって取り組んだ。このテーマについて研究をはじめて3年目であり、まだまだ問題点はあるにせよ、一応のまとめの年とした。

8. 昭和60年度の研究

59年度までの「豊かな心をもち、たくましく行動する子」の育成をめざした研究は、児童・生徒ひとりひとりに視点をあてた指導内容・方法等の研究をさらにすすめていく必要があることを示唆して、一応の区切りをつけたので、60年度は、個への取り組みをさらにすすめるため、「発達と障害に応じた教育をめざして ― 個に視点をあてた指導の実践 ―」というテーマを設定した。全児童・生徒のニードに応じた個人目標を設定して、達成のために指導実践を開始したのである。教師は、対象児を一人決定し、その対象児については詳細に記録をとりながら研究をすすめた。また、研究分野を同一にする教師が集まってグループを作り、研究会を随時もつことによって、個人研究の浅さや独断を補おうと試みた。

9. 昭和61年度の研究

昨年度に確立した取り組みの構想に基き、本年度も昨年度と同じ方法で研究と取り組んだ。しかし、児童・生徒の実態が変わってきていること、年度が改まり、担任が変わったことから、全児童・生徒の個人目標を新たに設定し直し、研究対象児も新たに決めて指導実践にあたった。そのため、研究グループも新たに発足させたが、昨年度の反省から、個人研究を学部と研究分野別の2つのグループから支えることにより、教師ひとりひとりの研究が、独断や狭い教育観、指導観ですすめられることのないようにしようと試みた。そして、本年度2月に研究発表大会を開催し、実践を世に問い、その指導の中から、本主題のまとめの年である来年度の研究のすすめ方を見出すこととした。